

# 行政視察報告

委員会名	建設環境委員会
視察日	平成28年5月11日(水)
視察先	岩手県盛岡市
視察委員	秋家聡明 委員長 梅沢五十六 委員 中村しんご 委員 水摩雪絵 委員 山本ひろみ 副委員長 米川大二郎 委員 工藤きくじ 委員 安西俊一 委員 牛山正 委員 うめだ信利 委員
調査項目	花と緑のガーデン都市づくりについて
事業概要	<p>盛岡市の姉妹都市であるカナダのビクトリア市は、花のまちとして世界的に有名である。そこで盛岡市は、ビクトリア市の文化を取り入れ、色彩豊かな花による市街地の美化を通じて、商店街の活性化や観光客の誘致を図るとともに、盛岡らしい緑の文化を醸成して全国に発信するため、平成16年度から市民・事業者・行政の協働による「花と緑のガーデン都市づくり事業」に取り組んでいる。</p> <p>本事業は、フラワーバスケット事業、フラワーオフィス事業、ビクトリアロード整備事業を主要事業として推進している。</p>
視察内容	<p>1 事業実施の経緯及び目的について 現市長の「花と緑ある理想の県都」という2期目の選挙公約を受けて、庁内横断的な「花と緑のまちづくりプロジェクト」を設置した。事業の枠組み等を検討し、平成16年度より本事業を実施している。盛岡市が姉妹都市提携しているカナダのビクトリア市を参考にして、市の関連施設や商店街等において、ハンギングバスケット等による連続的な緑化を図り、花と緑のガーデン都市盛岡というイメージを形成することで観光客の誘致、商店街の活性化、盛岡市の活性化を図ることを目的としている</p> <p>2 事業の概要 (1) フラワーバスケット事業 商店街組織等の団体が道路の沿道にハンギングバスケットを設置する場合の支援と市民等へのハンギングバスケットの普及を目的としている。 ・器材等の無料貸付 ・設置費補助金交付 ・アドバイザー派遣制度 ・ハンギングバスケット製作講習会 ・もりお花(か)ハンギングバスケットフェア (2) フラワーオフィス事業 市庁舎をはじめとする市の施設や官公庁などにハンギングバスケット等を設置する。 (3) ビクトリアロード整備事業 姉妹都市提携20周年記念事業として整備したビクトリアロードと新渡戸緑地にハンギングバスケット等を設置し、町内会の力もかりながら維持管理を行っている。</p> <p>3 事業の特色 市民・事業者・行政の協働による取り組みが特色で、設置主体が市と商店街組織の両方であることが特色の1つである。水やり、施肥などの維持管理は、設置主体である商店街組織が直営または委託により実施しているが、剪定作業については、市の造園技士が実施している。</p> <p>4 今後の課題と対策 (1) ハンギングバスケットの日常管理に係る負担の軽減化 吊り下げタイプなど、高い位置に設置されるバスケットに使用する充電式電動噴霧器は無償貸し付けしているものの故障が多く、速やかな対処に努めている。 (2) ハンギングバスケットの市民、事業者への普及の更なる拡大 もりお花ハンギングバスケットフェアや公民館でのハンギングバスケット製作講習会の開催、フラワーバスケットアドバイザーの派遣など、更なる普及の拡大に努める。</p>
主な質疑内容	<p>(問) 市長の公約で始まった事業というが、当初の市民感情はどうだったか。 (答) 税金の投入について意見もあったが、地元の協力を得て、市民にも定着してきた。 (問) いたずらや盗難はないか。 (答) 最初の頃は苗を抜き取られたりしたが、現在いたずらはない。 (問) 水やりはボランティアや地域が行っているが、その経費は市が負担しているのか。 (答) 市民や企業の協力で、水やりを行っている。市からは支出していない。 (問) 観光客の誘致も目的の1つということだが、効果は把握しているか。 (答) 全体の観光客数の推移はわかるが、事業の効果については把握できていない。</p>

# 行政視察報告

委員会名	建設環境委員会		
視察日	平成28年5月12日(木)		
視察先	宮城県石巻市		
視察委員	秋家聡明 委員長	山本ひろみ 副委員長	安西俊一 委員
	米川大二郎 委員	牛山正 委員	中村しんご 委員
	工藤きくじ 委員	うめだ信利 委員	水摩雪絵 委員

調査項目	東日本大震災の被害状況と復興への取り組みについて
------	--------------------------

事業概要	<p>石巻市は、東日本大震災において震度6強の揺れを観測し、最大8.6mの津波に襲われ、市内の13.2%が浸水した。死者3,178人、行方不明者422人、建物被害(全・半壊、一部損壊)56,701棟という甚大な被害を蒙った。</p> <p>これを踏まえ、石巻市は震災復興基本計画に基づき、今後10年間の復興に向けて、二重堤防・防潮堤・津波避難タワー等整備・復興公営住宅整備・防災集団高台移転等の災害に強いまちづくり、産業・経済の再生、絆と協働の共鳴社会づくりに取り組んでいる。</p>
------	--

視察内容	<p>1 被害状況について</p> <p>津波の高さ 最大T. P+8.6メートル(この高さの建物が倒壊、これ以上は不明)</p> <p>浸水面積 73平方キロメートル(市内の13.2%)</p> <p>人的被害 死者 3,179人 行方不明者 421人</p> <p>建物被害 全壊・半壊・一部損壊 合計56,701棟</p> <p>災害廃棄物の処理状況 発生推計量 629万トン(通年の廃棄物の108年分)</p> <p style="padding-left: 20px;">処理必要推計量 428万トン(発生推計量の68%)</p> <p style="padding-left: 20px;">計画期間完了 平成26年3月</p> <p>2 復興の実現に向けて</p> <p>(1) 石巻市震災復興基本計画 平成23～32年度</p> <p>(2) 市民の命を守る災害に強いまちづくり(市街地部)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・二重堤防(高台土道路、防災緑地) ・津波避難タワー、津波避難ビル</li> <li>・石巻駅周辺整備(行政施設・市立病院・商業施設等を集積) ・復興公営住宅整備</li> </ul> <p>(3) 市民の命を守る災害に強いまちづくり(半島部)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・防潮堤 ・避難道整備 ・防災集団移転、復興公営住宅整備(高台に住宅地を整備)</li> </ul> <p>3 復旧・復興事業費について</p> <p>(1) 主な財源 災害復興事業 約973億円</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>東日本震災復興交付金 約2,769億円(計画書は10回提出)</li> <li>震災復興基金活用 約250.2億円</li> </ul> <p>(2) 事業費総額 約1兆255億円(震災前の一般会計歳出予算の約17年分)</p> <p style="padding-left: 20px;">(復旧事業3,965億・復興事業5,322億・その他968億)</p> <p>4 復旧・復興に向けた取組状況</p> <p>(1) 高台のない市街地</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>二重の防御(堤防または道路)で津波を防御し、住居、学校、病院を守る。</li> </ul> <p>(2) 高台に囲まれた漁業集落</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>津波の及ばない高台への住居集団移転を図り、安全安心を確保する。</li> </ul>
------	---

主な質疑内容	<p>(問) 交付金の使い勝手はどうか。現場からの意見はあるか。</p> <p>(答) 柔軟にできればいいが、復興にしか活用できない。普通の補助金と似たようなものになってくる。</p> <p>(問) 日常の業務をこなしながらの復興作業はどうか。</p> <p>(答) 通常業務は建設部、復興事業は復興事業部が復興交付金を活用して行った。マンパワー不足はあったが、他自治体のノウハウある職員により、すぐ事業着手できた。</p> <p>(問) 高台の居住化について、平常時の移動の交通インフラへの考え方は。</p> <p>(答) 以前と交通体系は変わる。今年検討することにして取り組んでいる。</p> <p>(問) 災害が起こったとき、復興のとき、どのような種類の職員が必要になるのか。</p> <p>(答) 時期によって全く違う。状況により、人的被害、ライフラインの状態、職員の状況がわからないので、職員として何ができるのかを組み立てておく必要がある。</p>
--------	---